

本会はお互いの病院を訪問しあい、どのような工夫をしているか、情報交換をしながら、病院でのボランティア活動の大切さ、コーディネーターの役割について社会の理解と支援を広げたいことを目指します。



大阪のボランティアのみなさんと (2019年1月17日)

参加者 11人

- ① 福岡市立こども病院 松尾智種
 - ② 埼玉県立小児医療センター 富澤真麻
 - ③ 神奈川県立こども医療センター 加藤悦興 小林二美恵
 - あいち小児保健医療総合センター 金岡好
 - ⑤ 沖縄県立南部医療センター 伊波邦子
 - ⑥ 国立国際医療研究センター 渡辺麻野子
 - ⑦ 事務局 関根和子 坂上和子
 - ⑧ 神奈川県立保健福祉大学 野中淳子
 - ⑨ キリン福祉財団 北村公重
- 大阪府立母子総合医療センターの皆さま

プログラム

- 開催日：2019年1月17日 (木曜)
会場：大阪母子医療センター
- 10時00分 臨床研究支援室室長 植田紀美子先生挨拶
 - 10時10分 センター紹介 DVD
 - 10時30分 活動見学 (アトリウム→ロビー→ソイニング→きょうだいお預かり)
 - 11時45分 母子医療センターの活動紹介
 - 12時15分 昼食
 - 13時00分 ボランティアと意見交換、交流
 - 14時00分 解散

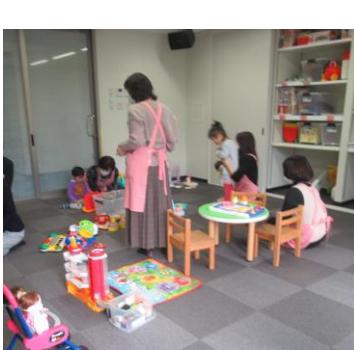
『視野を広げよう』 坂上和子
ボラコ新聞第2号では大阪母子医療センターの視察交流と、全国ボランティアコーディネーター研究会の参加、ふたつのことをお伝えします。本会は2018年1月に発足したばかり。他の病院を知って、視野を広げ、よいものは取り入れて療養環境をよくしていこうという気持ちで動き始めました。すでにいろんな成果がみられます。宮城こども病院の視察の際、ボランティア活動状況をパソコンで管理するシステムを知った大阪ではさっそくそれを取り入れました。それに続いて神奈川県も動き出しました。大阪でソーイニングの活発な現状をみて埼玉では、なんと3台のミシンが購入されることになったそうです。このスピード感、すばらしいですね!! コーディネーター研究会のことも少しふれました。病院の分科会に参加しました。大人と子どもでは違った課題もあります。病院のコーディネーターとしての共通基盤は大変勉強になりました。今年度は東京が開催地です。詳細はお知らせをご覧ください。



お互いに活発な質問が飛び交う。「うちの病院では兄弟の託児のニーズが高いのに、部屋がなくて困っています」「ひとりのコーディネーターで160人をどのように調整されていますか?」などなど。



ロビーのプレイコーナ。遊んでいるうち呼ばれます。乳児向けと幼児向けに分かれていて安全に配慮。ボランティアはおもちゃ運搬と見守り担当。



きょうだい預かりの部屋。おもちゃがたくさん。予約制。この日は2人の子どもに二人のボランティアがついていた。



ソーイニングボランティア。IVHを入れる袋やカバーほか亡くなったお子さんの“エンジェルちゃんお洋服”も手掛ける。



ボランティアハウスに掲示されたボランティアの写真。活動の様子が見える。ボランティアもチーム医療の一員です。

さっそく動きだしました (^_-) ☆

加藤悦興

神奈川県立こども医療センター (ボラコ)

昨年1月宮城こども病院のボランティアを見学した時、活動状況を把握するシステムを利用していることを知りました。その際に同行した大阪では、その後すぐそのシステムを導入しデータ取得していました。「正確で簡易になる等利点が多く、頑張って導入に取り組んだ結果です。」と。とても参考になり、刺激を受けました。早速、SE経験のボランティアの方に相談して着手し、システムを完成させました。この4月から運用しています。これまでは、活動時ノートに記載し、手計算でデータを出してきました。パソコンを利用してパソコンで管理されている為、いつ誰がどの部署でどれくらいの時間を活動しているかをデータ化できます。また、災害発生時等に病院内に誰が残っているかを知る手段にもなります。月あるいは年単位で数値化でき統計処理が容易になります。ボランティアの働きが見える化することは重要と考えています。

富澤真麻

埼玉県立小児医療センター (ボラコ)

当センターの裁縫ボランティアを立ち上げて1年半。これまでずっとボランティアの方々には自宅での作業をお願いしてきました。院内にミシンがないためです。「ミシン購入、はいつも後回しになる課題でした。でも今回大阪の様子を拝見し、「ボラさんのため患者さんのために院内作業が必要」と実感しました。思い切って担当者に打診したところ前向きな返答があり、3台のミシンを買ってもらいました。さらに、在宅支援の部署から「ママたちのためにカニューレホルダーなどの手作り講習会をボランティアさんに開いてもらいたい」との新たな依頼もあり、活動が各セクションに認知され求められていることを感じました。長い年月をかけて確立された大阪母子の活動は我々にとってはずっとずっと先の大きな目標ですが、そこに向けての大事な一歩を踏み出すきっかけを今回の視察でいただきました。大変感謝しております。ありがとうございました。

金岡 好

あいち小児保健医療総合センター (保育士・ボラコ兼務)

コーディネーターの会に入り、自身の保育士の仕事との兼務の中でも何とか改善できればと、前回神奈川県から職場に帰ってきてあれやこれやスタッフへ提案して考えながら行き詰っていた矢先の視察でした。あいち小児センターではNICU・PICUが設立してまだ数年ですが、きょうだい託児の依頼は多く増えており、今は昨年8月より担当保育士 (HPS) が託児をしています。心のケアも兼ねて遊びのプログラムを立てるなど専門性も高いのですが、1人で担っているためニーズに応えきいていないのが現状です。そのため、今回はきょうだい託児の運営方法などを主に学ばせていただくことが望みでした。きょうだい託児専用の環境やバラエティに富んだ玩具の充実、そして一定のボランティアの確保など、すぐには真似できないこともありましたが、運営の仕方など細かいシステムを教えていただいたため、来年度から少しずつでも始動出来るようスタッフと話し合いをしようと思っています。また、ボランティア室を覗かせていただき、ボランティアさん同士の“見える化”をしていることも参考にしたいと思っています。

